



榊原澄人《飯縄緑日》2021年（部分）

2024年度

長野県立美術館 移動展 in 飯山

会場：飯山市美術館

休館日：月曜日

開館時間：9時30分～17時（入館は16時30分まで）

観覧料：無料

主催：長野県、長野県立美術館、飯山市教育委員会

2024 sat 9/28 — 10/13 sun

お問合せ

飯山市美術館

飯山市大字飯山 1436-1 TEL.0269-62-1501

移動展 in 飯山 長野県立美術館

2024年度

長野県立美術館の前身・信濃美術館では、1966（昭和41）年の開館以来、郷土にゆかりのある美術家たちの作品と、美しい信州の自然を描いた風景画を中心に収集・公開してきました。2016（平成28）年に開館50周年を迎え、2021（令和3）年の新築オープンを機に現在の名称となった当館では、旧・信濃美術館のコレクションを受け継ぎつつ、新たに国内外の重要な近現代美術作品にも目を向けた4つのコレクション・ポリシー（収集方針）を設定。更なる充実を目指しています。

そのコレクションをより多くの方にご覧いただくために1979（昭和54）年から県内各地で開催している「移動展」。「2019年度長野県信濃美術館移動展 館蔵コレクション 旅行者たちの記録」以来、5年ぶりに飯山市美術館を会場に開催する本展で

は、飯山で晩年を過ごした歌人・童話作家の土田耕平による詩「飯山」（土田きみ子 編『土田耕平遺稿』、古今書院、1942年、第2巻所収）を手掛かりに県立美術館の収蔵品約30点をご紹介します。

武田雲室、長谷川青澄、浦野吉人ら飯山ゆかりの作家たちや丸山晚霞、草間彌生、池田満寿夫といった信州を代表する作家たちの作品、更には新築オープン以降、新たにコレクションに加わった小山利枝子《胎動》（2008）、根岸芳郎《16-5-14》（2016）、小松美羽《灯し続け、歩き続け》（2016）、榊原澄人《飯縄縁日》（2021）など油彩、水彩、日本画、漆絵、ブロンズ、版画、アニメーションと幅広いジャンルを横断。加えて、飯山市美術館コレクションから佐藤武造の《アイラ・サンダム》（1920）と《秋果》（1967頃）を特別出品します。

*諸般の事情により展示内容が変更となる場合があります。最新情報は長野県立美術館公式ホームページをご確認ください。



小山利枝子《胎動》2008年



野田英夫《初冬》1932年



榊原澄人《飯縄縁日》2021年



丸山晚霞《初夏の志賀高原》1909年頃

長野県立美術館

県民の声を受け、1966(昭和41)年に前身の長野県信濃美術館(当初の名称は信濃美術館)が善光寺に隣接する城山公園内に開館。以来、信州における唯一の県立美術館として活動を続けています。1990(平成2)年には併設館・東山魁夷館が開館。2016(平成28)年に開館50周年を迎え、翌年、改築工事のため一時休館。2021(令和3)年に「長野県立美術館」として新築

オープンしました。新たに「鑑賞」「学び」「交流」「研究」の4つの柱を掲げ、県民をはじめとする多くのみなさまの豊かで文化的な生活と、創造性あふれる人づくりに貢献することを使命としています。現在、5700余点の作品を収蔵。

県立美術館の詳細はこちら



飯山市美術館

飯山市大字飯山 1436-1
TEL.0269-62-1501